

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p><b>(1) 城東校区の地域コミュニティセンター建設要望</b>            城東校区第1町内の狭い地域に、70歳以上のお年寄りが100数人、その内一人暮らしの方が45人いる。城東校区は16町内あるが、他の町内も同じ状況である。            街中は買物の場所や病院などが近くにあり便利だが、お年寄りを集めて催し物をする場所や地域コミュニティセンターがない。            地域コミュニティセンターがないため、有料の場所を借りて集まったりしている状況である。そこで、城東保育園があった場所に、地域コミュニティセンターをつくってほしい。</p>	<p>熊本市内には、現在約70箇所の地域コミュニティセンターがあるが、未設置の校区からは設置を求める声も多い。            中央区では、大江、五福、城東、白川の4校区に地域コミュニティセンターがなく、城東校区からも平成25年11月に確かに要望書をいただいている。地域の要望は承知している。(白川は、H28開設予定)            地域コミュニティセンターについては、場所や、交通の便の問題などがある。この間、植木の方で改築したものがあがるが、これは元からある公民館を活用しているものである。            城東保育園跡地は公有財産にあたり、その利用には踏まえるべき手続きも多く、取り扱いが難しい。まず、元々の所管部署から公有財産を管理する部署へ窓口を動かし、利用価値が高い場所なので、コミュニティセンターを含めこの場所に何がふさわしいかなど、活用に関しては全庁的に協議して考えなければならない。            私自身は、各地域で皆さんが集まる場所を確保することは重要と考えている。そこを中心にいろいろな話し合いができればいいと思う。            例えば、この中央公民館は、老朽化が進んでおり、建替えも考えないといけない。ここは碩台校区だが、城東校区も近いので、一緒に地域コミュニティセンターを合築するとか、建替えするとかいろいろな選択肢があるものと考えられる。</p>	市民局	生涯学習推進課
	<p><b>(2) 白川公園の屋台について</b>            私が民生委員として訪問しているところに、白川公園に屋台を出している方がいる。            市役所からは、いつやめるのかと言われていたそうだが、むしろ、白川公園に屋台をもっと置き、博多のように熊本名物を食べてもらえるようにすれば、全国から人が集まるのではないかと。</p>	<p>屋台については、福岡市長も悩んでいた。条例をつくるなど残す方向のようだが、いろいろと経緯があり難しい状況があったようだ。あれもひとつの文化ではある。            白川沿いについては、屋台も含めてだが、風情のあるまちづくりをどこかでできないかと思っていた。            場所は異なるが、市役所から市民会館までの間の暗い長堀通りに屋台があればと、市長になる前に意見を言ってみたことがある。排水施設、衛生上の問題などいろいろあるので、警察等との協議なども含め、状況を整理しながら、いろいろ検討していきたい。</p>	都市建設局	北部土木センター 総務課
2	<p><b>城東保育園の跡地利用について</b>            平成25年に地域コミュニティセンターの設置を陳情した。どこの校区にもあるが、城東校区にはない。今まで地価が高いので無理は言えないと思っていたが、城東保育園の移転後、解体も終わり、今、その跡地は更地となっている。            生涯学習推進課に検討してもらい2年経つが、まだ決まっていないという返事である。            前市長のときに陳情したので、大西市長にも話しておきたい。</p>	<p>まだ、具体的な計画があるわけではないので、いろいろなご意見を賜って、市のさまざまな事情を含め、協議していきたい。</p>	市民局	生涯学習推進課
3	<p><b>(1) 住居表示変更の問題について</b>            平成25年、世安町は、住居表示変更の要請を区政推進課へ提出した。            現在、区政推進課においては、向山校区の本山、世安、本荘の●●番地を何丁目●番地にしようとして取り組んでいる。            世安は、密集しており、番地が飛んだり、枝番も多かったりと、非常に分かりにくい状況なので、本荘、本山の参加がなくても、世安だけでも早く何丁目●番地に住居表示を変更してほしい。</p>	<p>分かりやすい住居表示にすることは、担当課でも検討しているところだと思うが、番地の変更は、それが載っている全ての印刷物の変更が必要となるなど、影響の及ぶ範囲が広いので、住民の皆さんの合意形成も難しいものと思われる。            よその地域や過去の事例なども踏まえながら、検討していきたい。</p>	市民局	区政推進課
	<p><b>(2) 道路拡張について</b>            世安と十禅寺の間に三の井手が流れている。平成23年からずっと蓋の設置を要望してきた。西部土木センター維持課の職員が現地に来て、30分ほどの通行量を測ったが、費用対効果の観点から蓋の設置は厳しいとのことだった。            また、本山駐在所から平成2丁目に抜ける道で、ダイキと九州電力の間で道幅が狭く70mほど離合できない場所がある。そこについては、九州電力の敷地(変電用地になっている水路部分)を道路化すれば、車もスムーズに離合できるようになる。            費用対効果とするならば、道路拡張をすれば効果があるのではないかと考えられるので、ぜひ道路を拡張してほしい。</p>	<p>道路拡張の話については、私もその道路は通って知っている。            有償では難しいということもあると思うが、出来るだけ車の運転がしやすいように九州電力と協議していきたい。</p>	都市建設局	西部土木センター 工務課

No.	ご意見	回答	局	担当課
3	<p><b>(3) 道路の名称について</b>  「白山通り」というが、どこからどこまでをそう呼ぶのか、はっきり分からない。  想像するに、電車通りから南熊本までくだらうと思う。  南熊本の先から新世安橋にかけては、別の名称をつけてもらわないと分かりにくい。  例えば、金比羅山のところは金比羅山通りと呼ばれ、本山は本山通りと書いてあるし、私たちは世安のところを新世安通りと言っている。  いずれにせよ、「白山通り」は、どこが始点でどこが終点かはっきりしないので、よく検討し、ふさわしい通りの名前を付けてほしい。</p>	<p>「白山通り」は、確かに言われてみるとそうだった。  手元のゼンリン地図を見ると、南熊本までが「白山通り」、その先が「琴平通り」として掲載されているが、「白山通り」などは通称であり、道路の名称としては、他と同じで「●●線」となっているはずである。  ただし、特に大きな通りの通称は、皆さんに分かりやすいものである必要があると思うので、今すぐここで答えは出せないが、意見を聴きながら考えていきたい。</p> <p>(ご意見の該当する部分の道路の名称は、「二本木2丁目新大江1丁目第1号線」となっている。  「白山通り」の区間は、南熊本交差点から九州電力大江変電所前交差点の区間となっている。  通称名は、市街地の観光を容易にするとともに、市民の交通の利便を図ることを目的として、主要道路に分かりやすく親しみやすい名前を付けたものである。  平成12年に市民の方々の認知度、住宅地図、パフレットへの記載を考慮し、国県市の研究会で検討している。  平成22年には中心市街地の地元商店会と話し合いをし、名称の修正、追加を行い歩行者案内板やストリート案内板を設置している。【道路整備課】)</p>	都市建設局	道路整備課
4	<p><b>原発対策の危機管理について</b>  8月10日に川内原発が再稼動するのではないかとされているので、その前に、皆さんの生活にも関わることなので、話を聞きたい。  東日本大震災後に、東北・関東などから熊本へ多くの避難者がやってきた。その方々がネットワークを作ろうとしている。引越して来てから、県や市といろいろあったので、要望書をそのうち出されるということを伝えてくるよう頼まれた。  避難者は、何も持たずに熊本に来て苦労され、その時にもう少しサポートがあればよかったのではないかと思いますので、その辺のことを聞いていただきたい。</p> <p>本題に戻ると、川内原発は出来て30年過ぎの老朽炉であり、原子力規制委員会からは合格が出ているものの、規制委員長自身は安全とは言わないという状況の中、再稼動に至ろうとしている。  そのような中、熊本県の危機管理部門に尋ねたところ、原発に何かあった場合の県の対応としては、県民に迅速に連絡をすることと、モニタリングポスト（放射線測定装置）を5つに増やしたということだったが、モニタリングポストに数字が出るようになっては県民は既に被爆している状況である。  熊本市では、例えば水害にはハザードマップなどはあるようだが、ヨウ素剤を配るとか、市民が被爆する前に非難させるための算段は、まだないと思う。  事が起こってからでは遅いので、この件については何か検討がなされているのか。もし、検討が無理ならば、再稼動は待ってもらうように国に話をしたいので、市の対応について話を聞きたい。</p>	<p>避難されてきて熊本にお住まいの方々の要望事項は、きちんと聞かせていただきたい。</p> <p>次に、川内原発の再稼動は、国の原子力政策の一環なので、原子力規制委員会の見解を踏まえた政府の判断によって、安全対策を含めてきちんとなされるべきものだと考えている。したがって、政府また原子力規制委員会等が科学的に問題ないと断言できるかを待たないと、私自身が今ここで再稼動の是非を判断し見解を述べる立場にはないということをご理解いただきたい。  危機管理については、ハザードマップもその一環だが、県や市では、国の法律に基づき地域防災計画を作成している。原子力発電所に被害があった場合どうするかについては、地域防災計画の中でも一次的には県の方で考えることになっていると承知している。  さまざまな問題が起こったときに、熊本の対応は遅いと言われないように、そのような情報を共有できる体制は、きちんと整えていきたい。</p>	総務局	危機管理防災総室

No.	ご意見	回答	局	担当課
5	<p><b>(1) 中央区で配布されたカレンダーについて</b>            今年3月、新しく町内自治会に加入した方にお配りくださいということ            で、中央区で作成したカレンダーが民生委員などに配られたが、多くの校            区・町内では活用されていないように思われる。            来年また、このようなカレンダーを作る予定はあるのか。予定がないので            あれば、その分の予算を福祉に回してほしい。</p>	<p>(区長)            2000万の予算と紹介した、まちづくり推進経費でどのようなことをするの            かについては、区民の方々からいろいろな提案を受けて決めたところではある            が、十分ではない部分もある。            既に取り掛かっているものをどう活用していくかなども含め、今後、更に区民            の皆様のお話を聴きながら進めていきたい。            (なお、昨年度19校区に電子地図を配布し、今年度は操作研修として基礎コー            スなど4コースに約200人の申し込みがあり、7月～10月の期間で研修を実            施中である。【中央区役所保健子ども課】)</p>	中央区役所	総務企画課 まちづくり推進課
	<p><b>(2) 校区の町内割り電子地図について</b>            校区の町内割りが入った電子地図が昨年配布されたが、私の校区には、既            にあった。このような電子地図自体は、自分たちでもある程度作ることでは            できる。            しかし、市に活用法を尋ねると、それは住民の方で考えてくださいという            ことだった。市長の話にもあったように、市民の声が活かされていない。市            民が何を必要としているのかを聞く前に、市が先走っている印象である。            その一方で、今度、電子媒体に不慣れな方が多い自治会長向けのPC講座            を行いますといったように、対応が後手後手に回っていることが多いのでは            ないか。</p>	<p>また、まちのわカレンダーについては、地域活動等の参考にしていただき、自            治会への加入及び地域活動参加促進のため作成し、配布したもののだが、来年度の            カレンダー作成については、現在のところは予定していない。【中央区まちづ            くり推進課】</p>	中央区役所	総務企画課 保健子ども課
	<p><b>(3) 買い物難民について</b>            向山校区、慶徳校区、五福校区の住民は、買い物難民と言われている。ロッ            キーという大きなドラッグストアはあるが、他に買い物できる店があまりな            い。            例えば、区どうしの交流が図られるような話し合いの場を設け、西区、南            区などの農産地域と中央区で交流し、定期的にマルシェを開催するなどして            もらいたい。</p>	<p>(区長)            中央区は、高齢者、一人住まいの方の数が5区の中で一番多く、買い物難民は            大きな課題である。            関係部署と連携して、まちづくりの中でどのようなことができるのか研究して            いきたい。</p>	農水商工局 中央区役所	商工振興課 農商工連携推進課 まちづくり推進課

No.	ご意見	回答	局	担当課
6	<p><b>(1) 人口が減少する中でのまちづくりについて</b>            熊本市の人口は、昭和20年ごろで約25万人であり、私が中学生のときの社会科の地図では、約55万人で全国16位くらいだった。それが、今では約74万人となった。市の面積は、80平方キロメートルから390平方キロメートルとなり、約5倍の広さになった。            今後人口が減っていき、その一方で土地はあるといったときに、どういう状態で熊本市を支えていくのが、一番大切なことだと思う。市長は、仕事をリタイヤした人が帰ってきて担うのもよいと言っていたが、平均余命から考えても、皆そういつまでも生きてはいない。人口の減少傾向が強まる中で、若い人を熊本市内でどう採用するかが一番大事だと考えるが、先ほどの市長の話では、その点が抜けていたように思う。            私も7年前に親の介護で熊本に帰ってきたが、子どものころの友人の家があった場所は、駐車場になっている。中央区には、このような駐車場ばかりが目立つ。皆、小さい土地にしがみついているように見える。            せっかく上通で店ができて半年ぐらいで閉店し、その後は誰も借り手がない状況もある。このような現状に対する企画・対策を、市の職員にも考えてもらわなければならない。</p>	<p>現在の熊本市は、面積が390平方キロで人口は全国17位となっており、全国順位自体は以前とあまり変わっていない。合併によって市域が広がったが、これによる人口分布の分散については、今後のまちづくりをしていく中で考えていく必要があるだろう。            現在、本市では、中心市街地と15の地域拠点を核として、公共交通等で結ばれ、地域拠点が相互に連携した多核連携型の都市づくりを計画している。このことについては、総合計画づくりの中でも紹介していきたい。            また、空き地が駐車場に変わっている現状については、しっかりと対応策を考えていきたい。            若い人が就労するための場所をどうやって作っていくかということに関しては、大変重要だと考えている。            他都市で就職し、熊本に帰ってこようとしても、熊本には仕事をする場所がないと嘆く人もいる。本市では、昨年度から、大都市圏でのUIJターン就職希望者と地場企業との合同就職面談会を開催しており、本年度からは求人情報の提供や就職相談を行うサポートデスクを設置し、UIJターン就職に向けたフォローアップを行う予定である。私も市長として、熊本に本社や支社をつくってもらえないかと、企業へのトップセールスにも努めている。熊本の賑わいを創っていくためにも若い人の就労の場所を確保し、熊本に長く住み続けたいと思ってもらえるようなまちづくりをしていきたい。危機感を持って取り組んでいく。</p>	農水商工局	産業政策課 商工振興課
	<p><b>(2) ふるさと納税について</b>            熊本市のふるさと納税は、赤字、黒字どのような状況にあるのか。            ある新聞で紹介されていたのは、1万円を寄付した市民に市内で使える3千円分の商品券を渡すようにするというもので、寄付者の住民税控除等で税収が減っても、それは地方交付税交付金で補填すればよいという内容だった。            もし、市にお金がないのなら、あらゆる手段で集める方法を市の職員として考えるべきではないのか。</p>	<p>ふるさと納税に関しては、単純に赤字、黒字とは言えない。例えば、本市の「一口城主」も寄付制度としては同じ仕組みであり、それも入れると多い状況。            実は、本市のふるさと納税では、寄付者に対して特産品を送っているわけではないので、メニューが少ないと指摘を受けることもあり、市の収入を増やすよう、いろいろなアイデアを考えているところである。            しかし、ふるさと納税が全国的に1つの商売のようになっている現状や、「税」という名前でのいいのかについては、個人的には疑問に思うところである。本来は、一口城主であったり、水前寺や江津湖の思い出の風景を守るためなど、寄付の趣旨をはっきりさせておくべきだと考えており、単に物の対価としての寄付というのは制度としてどうかと感じている。            ただ、規格外の農産品ならばどうかと農業団体から提案などもいただいているようなので、お礼の品の選定についてはいろいろと検討はしていきたいと考えている。</p>	観光文化交流局	シティプロモーション課
7	<p><b>子育て支援について</b>            出水南校区は、浜線バイパスから東へ入っていくと田園風景眺められる町内である。            当校区の町内は、30年前は子ども会に200人いたのが現在20人という現状だ。市や市長のいろいろなビジョンは良いが、それを支える子ども、将来の担い手がいなくて意味がないのではないのか。            今、この会に参加している仕事をしていて子どもさんがいるお母さん方にとっては、子どもをどこに預けるのかなど、子育てに関わる問題は山積している。            いろいろなビジョンを持つのは良いが、その1/6でも1/7でも良いので子育て支援対策へ予算を充ててほしい。待機児童問題などについても、何の心配もなく子育てできる体制を整えてほしい。            さまざまな問題の対策を考えても、そもそも地域に子どもがいないのでは、本末転倒である。危機感を覚え、心配している。</p>	<p>子育て支援については、政策のメインに据えている。その中でも、待機児童対策は一番力を入れなければならないと考えている。            今までは、児童の受け皿づくりをしてきたが、今年4月1日時点で、待機児童が397人いた。この数は政令指定都市の中でも非常に多い数字だった。受け皿はあるが、マッチングが出来ていなかったのが、5月19日の記者会見の時に担当に改善を指示した結果、6月1日時点で47人となった。            待機児童にも色々種類があり、希望の園に入れない児童を保留児童というが、この数も減ってきている。対策とともに、マッチングをしていくことが大切だ。            その他の子育て支援に関しても、子育てしやすい環境づくりに何が足りないのか計画を立てて、明日の記者会見で方策について発表する予定である。まだ十分とは決して思っていないが、熊本は比較的子育てしやすい地域だということを外にアピールしていきたい。            少子化で困っていたフランスでは、しっかりと対策を講じたため、出生率が上がり子どもが増えた。そういう地域では、子どもを中心として地域の交流がしやすく、お年寄りを含めたコミュニティが出来やすい。            子育て支援には、すぐには具体的な結果が出ないこともあるが、やればすぐに出来ることもあるので、頑張って取り組んでいきたい。</p>	健康福祉子ども局	保育幼稚園課 子ども支援課

No.	ご意見	回答	局	担当課
8	<p><b>(1) 坪井6丁目の道路冠水について。</b> 道路の冠水問題で悩んでいる。 今年、飛田バイパスの冠水が全国でTV中継されていた。滅多にないところは注目されるが、この地域は頻繁に冠水するので、住民も慣れてしまっている。道路よりも1m高く家を造っているのに、床上浸水はまずないが、道路の冠水は住民のストレスになっている。 坪井川遊水地公園には水を逃がす機能が思ったと思うが、過去20年で1回くらいしか公園に水が入っていない。公園に水が入って水を逃がすということがなく、逆に町内に水が入っている状況である。この問題を至急どうにかしたいと思い、区のまちづくり推進課の協力を得て地域版ハザードマップを作成した。 このマップを作るということは、市の担当部署に冠水しやすい箇所等の情報が伝わっているはずである。したがって、ただ住民に災害時はこのように逃げてくださいというだけではなく、その先の、冠水の対策をお願いしたい。具体的には、現在あるポンプ小屋と反対側にもう1つポンプ小屋を増設してほしい。</p>	<p>坪井6丁目付近野道路冠水の問題だが、遊水地が本来の機能を果たしていない。 中央区役所でも現状を見て対策を考え、都市建設局とも協議していかねばならない問題である。この水の問題に関しては、実は少しずつではあるが整備をしているところなので、ご理解をいただきたい。  (北部土木センターでも、坪井6丁目付近の道路冠水については把握している。今後も坪井川管理者である熊本県と連携して、改善に向け努力していく。【北部土木センター】)</p>	<p>総務局 中央区役所 都市建設局</p>	<p>危機管理防災総室 総務企画課 まちづくり推進課 北部土木センター維持課 河川公園整備課</p>
	<p><b>(2) 音楽による熊本の活性化について</b> 私も若いときにバンド活動をしたのだが、実は、熊本はバンド王国である。今度、「HI-GO MANIA (ハイゴーマニア)」というイベントが市民会館である。プロデビューしているアーティストも大変多い。 その一方で、私が若い頃あった、熊大のロックイン黒髪というイベントもなくなり、アマチュアの文化が中々育たない状況になっている。 そこで、草の根でやっている音楽の自主イベントを、市でも何か援助してもらえないだろうか。例えば、8月末には熊本市内の20以上のアマチュアバンドや県外の4バンドが参加し、企業が協賛して応援している肥後ロックというイベントがある。 音楽をテコにして市を再生させるチャンスだと思う。大人には十分認知されていないようだが、今、熊本は、若者からは音楽の街ということでも大変注目されているところなので、よろしくお願ひしたい。</p>	<p>バンドについては、私もやっていた。ロックイン黒髪に出たこともあった。 エンターテイメントに関しては、音楽も含め、あらゆる世代の人が楽しめるようなものが出る、賑やかな街にしたい。</p>	<p>観光文化交流局</p>	<p>文化振興課</p>
9	<p><b>(1) 成果指標について</b> 市政につき、今後の方向性を理解したくて参加した。 新しい総合計画については、具体的な策定が秋から年末くらいになるということは分かった。 熊本市がこれから直面していく少子高齢化への危機感については、市長の話と同感だった。問題は、いかに具体的な目標を設定して、具体的な施策を実施していくかである。 市長の任期が終わるときに、最後に定量的に評価できるように施策を進めてほしい。そのためには、市職員もチームワークで頑張り、若い人へ十分な仕事を確保してほしい。</p>	<p>いろいろな計画や目標をつくる際に成果指標をつくり、それを達成できたか、なぜ出来なかったかを明らかにすることは重要だと考えているので、しっかりと取り組んでいきたい。 ただし、数値化だけでは達成できない部分もあるので、そのようなものに対しては、別のいろいろな指標も加えながら、市民の皆様が満足のいくものにしていきたい。</p>	<p>市長政策総室</p>	<p>政策企画課</p>
	<p><b>(2) 熊本大学の充実について</b> 黒髪は文教地区だが、熊大がもっと輝くような施策もぜひ考えてほしい。 何年かの計画で、全国から学生が来くなるような先生を招いたり、講座をつくったりして、充実させてほしい。</p>	<p>(いただいたご意見の内容については、個人情報を除き、熊本大学の事務局へ情報提供させていただいた。【広聴課】)</p>	<p>市民局</p>	<p>広聴課</p>

No.	ご意見	回答	局	担当課
9	<p><b>(3) 高齢化について</b> せっかく市街地を再開発し、いろいろな施設を造っても、モビリティが確保されず、高齢者がそこに来られないようでは、十分な活用ができない。 今の交通システムは、私たちより下の世代はいいかもしれないが、高齢者や足が悪い方などには不便である。例えば、停留所などのハード面の整備も必要である。 その一方で、介護タクシーなどをみると、待ち時間もなし常にフル稼働しているようなので、儲かっているのではないか。インターネットを利用し、オンデマンドで空車を有効に利用するなど、方法はいろいろあるように思う。 人間の移動を活発にする方策を考えていただき、高齢者の方々も気軽に市街地の施設や商店に行けるような施策をぜひ講じてほしい。</p>	<p>公共交通には、私も非常に大きな関心を持っている。 今、熊本は完全に車社会になってしまっているが、高齢化が進む中、公共交通が充実した社会へシフトしていくこと、だれでも利用しやすい環境をつくることが重要である。 そのためには、市電の延伸、バス網の再編などに取り組み、利便性の高い公共交通で、ある程度のところまでは行けるようにし、公共交通が不便な地域ではデマンドタクシーなどを活用して、人の流れをつくる必要があると考えている。 再開発で目的地をつくるだけでは仕方がないので、それらをきちんと繋ぎ、人の流れが良い熊本市にしていきたい。</p>	都市建設局	交通政策総室